

Workshop 2 (C会場)

『文法事項定着のために』

辻 廣 和 茂
(旭川市立嵐山中学校)

「単現」の-sはその他の語形変化に比べて習得が遅れるということが, "Natural Order Hypothesis" で述べられている。

Native Children (Roger Brown, de Villiers), 5~8歳のスペイン語話者と中国語話者(Duley & Burt),日本人,ギリシア人をはじめとした12の異なった母国語の背景をもつ73名のESLクラスの学生(Bailey, Madden and Krashen)を対象に行った結果,似たような形態素の習得状況は全て酷似していることがわかった。(新しい英語科授業の創造 斉藤栄二ノ)

今までの教職歴を振り返ってみると,確かに「単現」の-sの定着は難しい。そこで,他者紹介等の活動を通して,定着を図ってきている。中学校の教科書では1年生中盤で出てくるのは,機を見て3年間何度も復習できるようにとの配慮かもしれない。

活動名 『他者紹介』

準備 ワークシート

人数 4~5名のグループ

言語材料

「単現」の-s He(She) ~s ..., Does he(she) ~ ...? What does he(she) ~ ?

ワークシートを配布し,グループのメンバーの名前を記入する。

自分が紹介する人を決めて,その人の名前を自分のwhoの欄に記入する。

各カテゴリーについて,記入する。

そのワークシートをもとに,その人について紹介する。

全カテゴリーについて紹介しないようにする。

聞いている人は,各カテゴリーの内紹介しなかったことについて,予想して"Does he (she) ~ ...?"と聞いたり,予想できないことについては"Wh at does he(she) ~ ?"と聞いたりしてワークシートを埋めていく

カテゴリーにないことについても尋ねることができる。

Worksheet

Name				
who				
live				
like (food)				
like (sport)				
play				
like (TV program)				